

星久喜公民館

「お泊まり | N星久喜」

講座のねらい 小3年～6年生が公民館での宿泊体験や野外炊飯体験を通して、災害時の疑似体験を行うとともに、異学年の子供が共に考え協力し合い、自主性や協調性、コミュニケーション力を育てる生きた体験活動の場とする。学生ボランティアや地域ボランティアも共に講座を作り運営することにより、スタッフの学びと育成の場とする。



「こころをほぐそう」は、学生ボランティアを中心にレクを取り入れ、緊張した心をほぐしながら人間関係を作ります。



「手作りうちわ」では、和紙を絵具で染め、それをうちわの骨に貼りつけます。個性豊かなうちわの出来上がり！



「食事」はグループで協力して作ります。サバ飯とは缶にお米を入れて、朝刊1日分の薪で炊飯。みんなカレーをお代わりにして食べました。

「組紐作り」経験のある人が初めての人に教える、学習の連鎖に発展。



中学校で「きもだめし」

「きもだめし」は中学校校舎で中学生が大がかりなお化け屋敷を作り、中学生や大人がお化けに仮装。小学生には怖くて楽しみな行事です。



「缶切に挑戦」



「古代の組紐作り」



楽しい「スイカ割り」

参加者の声

小学生 :みんながかつやくできるように声をかけた。全部楽しかったです。カレー作りではみんなで協力しておいしく作れました。みんなの目標を全部守れました。サバ飯は、新聞紙で火をつけ、きれいにたけました。きもだめしでは、先頭で歩いたのでとてもこわかったです。みんなで、ご飯を食べた時はおいしかったし、楽しかったです。来年もまた来たいです。

・自分一人しかできないことを友だちと協力して効率良くやった。寝るときにバスマットだと腰が痛かったです。私は不器用だけど、ウチワづくり、ミサンガ作りはていねいに教えてくれて、私でもきれいに上手に出来たので、うれしかったです。

スタッフ :素晴らしい晴天に恵まれ、子ども達が少し緊張した面持ちで集まって来ました。生まれればあっという間に時間が流れ、たくさんのスタッフと子ども達の笑顔に囲まれて過ごすうち、気がつけば自分の緊張も解け、一緒に楽しみながら過ごしていました。子ども達が笑顔で活動するお手伝いが出来た事は、貴重な体験となりました。

成果と課題

成果 :子ども達は異学年が混ざり合い、缶切や包丁使いなど普段できない体験活動や宿泊体験をし、みんなで元気に楽しく過ごすことで、大きな自信につながった。またスタッフも学生から経験豊かな年配者まで幅広く協力することでスムーズに運営できた。

課題 :夏の暑さ対策やアレルギー対策、ケガの防止など健康面での配慮が必要。学生ボランティア確保も難しくなっており、ボランティアセンターや大学等への早めの声かけが必要。